

画像：NASA 国際宇宙ステーション(ISS)から見た流星

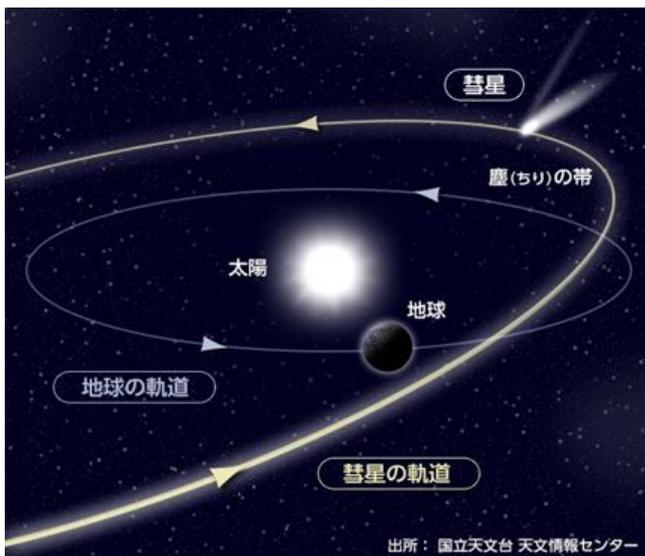
2016年12月13日~14日

ざりゅうせいぐん

ふたご座流星群
をみよう！

発行：福岡県青少年科学館

ふたご座流星群は、三大流星群のひとつで、毎年ほぼ一定して、観察条件が良ければ、1時間に40個以上の流星が見られます。今年は極大日の14日が満月で、あまり条件はよくありませんが、出現期間は12月5日頃から12月20日頃までと長いので、月明かりを避けて観測しましょう。ふたご座にある放射点は、ほぼ一晩中夜空で見えています。深夜の2時頃には、放射点がほぼ天頂に位置するため、流れ星が真上から降ってくるように見られます。



出所：国立天文台 天文情報センター

『彗星と流星』の関係 流星は、彗星や小惑星の通り道を毎年同じ時期に地球が通過し、そこに残されていた“ちり”が地球の大気にとびこんで、上空100km前後で発光して見えます。流星の元になる“ちり”は、せいぜい0.1mmから1cm程度のものであることが多いと言われています。ふたご座流星群は、ファエトンという小惑星によるものと考えられています。